危険物運搬船の電気設備に関する事項

改正要領

鋼船規則検査要領 R 編

改正事項

危険物運搬船の電気設備に関する事項

改正理由

IACS 統一解釈 SC79 では、危険物を運送する船舶において、電気設備が発火源となって船内に火災を発生させることを避けるため、当該船舶の危険場所に設置できる電気機器が規定されており、既に本会規則に取り入れている。

同統一解釈においては、ビルジ管のフランジ、弁、ポンプ等から可燃性液体貨物が漏洩する危険性のあるパイプトネル又はビルジポンプ室等の閉囲区域を危険場所とみなすことが要求されているが、IEC60092-506 に従った加圧による保護がなされている場合には危険場所とみなさないことが認められている。

しかしながら、当該加圧による保護は、保護区域への爆発性雰囲気への侵入に対しては有効であるものの、保護区域内に可燃性液体貨物が漏洩した場合には、発生する爆発性ガスを排出するために、更なる換気が必要であると考えられることから、IACS において、当該保護要件をより合理的なものとするべく同統一解釈の見直しが行われ 2015 年 10 月に IACS 統一解釈 SC79(Rev.4)として採択した。

このため、IACS 統一解釈 SC79(Rev.4)を取入れるべく、関連規定を改めた。

また、危険場所に開口を有する隣接場所を非危険場所とみなす場合の保護要件が、IEC60092-506 との間で一部異なっていることから、併せて整合を図るべく、関連規定を改めた。

改正内容

- (1) フランジ、弁、ポンプ等の危険ガス放出源を有するビルジ管がある閉囲区域を非危険場所とみなす場合の保護要件を規定した。
- (2) 危険場所のうち、IEC60092-506 に規定される拡大危険場所に開口を有する隣接場所を保護するために、ガス密の仕切り又はガス密の自動閉鎖扉を設置する場合には同場所を非危険場所とみなす旨規定した。

改正条項

鋼船規則検査要領 R 編 R19.3.2